The Association of Rural Planning

江ノ電のある風景イメージの発信・受信とその比較考察

The Scenic Image with ENODEN and the Comparison between its Sending Image and Receiving Image

栗原伸治*，糸長浩司*，藤沢直樹**
KURIHARA Shinji*, ITONAGA Koji*, FUJISAWA Naoki**
(*日本大学生物資源科学部，**日本大学大学院生物資源科学研究科)
(*College of Bioresource Sciences, Nihon University, **Graduate School of Bioresource Sciences, Nihon University)

I　はじめに

1　目的と方法

地域環境計画にとって，地域環境のイメージを考慮することは重要である。地域環境は，人びとにそのイメージを創出させるとともに，イメージによってそれは創出されるからである。「湘南」という地域の地域環境イメージも，さまざまに創出・発信されており，人びともそれをさまざまに受信し，地域環境を創出している。そのようななか，江ノ電（江ノ島電鉄）がもたらす湘南の地域環境イメージの発信・受信も，多大にあるのではないかと考えられる。

江ノ電は現存する「日本最古の電鉄路線」である[注1)]。「湘南」という地域柄，江ノ電を利用する機会は，地域住民だけでなく，観光客にとっても多い。レトロな車両がはしり，わずか 10.2 キロの路線に多様な景色があって，「江ノ電ファン」や「江ノ電マニア」とよばれる人びとも存在する。そのため，江ノ電やその風景に関する絵や写真が多くの文献でみられ，それらによって，江ノ電やその風景のイメージは発信されている。

本稿の目的は，江ノ電沿線の多様な景色のなかで，「江ノ電のある風景」イメージがどのように発信され，またそれはどのように受信されているかを分析し，そのうえで両者の比較によって，その共通点と相違点を明らかにしてゆくことにある。

すなわち，地域環境イメージのひとつとしての風景イメージ研究ではあるが，本稿ではその一断面だけでなく，イメージの発信・受信という２つの断面の共通点と相違点をもとめる。そのときに，そこに発生する各要素間の関係性も考慮しつつ考察する。本稿は，このような発生構造主義[注2)]的な観点も視野に入れつつ，風景イメージの総体的把握に向けた，地域環境計画の基礎研究である。

そのために，本稿は以下の①～④のような方法にしたがって展開してゆく。

①図書，絵はがき，かるた等の文献にみられる，「江ノ電のある風景」に関する風景画を抽出し，路線図と対応させつつ，それらが描かれた場所，方角，季節等について分析する。

②①の分析結果をもとに，アンケート調査をおこなって，「江ノ電のある風景」に対する人びとのイメージについて分析する。

③路線図および風景画をもちいて，路線の区切りに関する実験，および風景イメージに関する実験をおこなう。

④①と②の結果を，③の結果をもちいつつ比較し，その共通点と相違点を明らかにしてゆく。

2　江ノ電の概要

上記のように，江ノ電は現存する「日本最古の電鉄路線」であり[注1)]，そのレトロな車両や短い路線に多様な景色をもつため，「江ノ電ファン」や「江ノ電マニア」とよばれる人びとも存在する。

江ノ電は，明治 35 年(1902 年)に藤沢～片瀬(現江ノ島)間で開通し[注3)]，この区間は 3.4 キロ，昇降場は 10 ヶ所あった。その後，明治 43 年(1910 年)に藤沢～小町(現鎌倉)間 10.2 キロの全線が開通し，昇降場は 39 ヶ所となった。現在，昇降は 15 ヶ所となっている(図１)。

NII-Electronic Library Service

The Association of Rural Planning

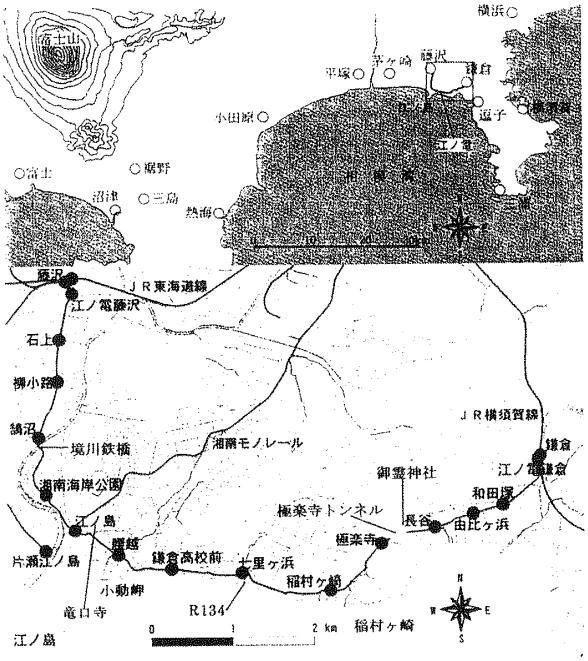


図１ 江ノ電路線図

Ⅱ 風景画にみられる江ノ電のある風景イメージ

1 風景画にみられる江ノ電のある風景

(1) 対象とした風景画

もっとも多く江ノ電に関する文献を出版している江ノ電沿線新聞社の文献を中心に用いる。これらの文献から江ノ電のある風景画を抽出し，路線図と対応させて，描かれた場所，方角，季節等について分析する。

使用した文献は，1979 年から 2000 年 10 月までに，おもに江ノ電沿線新聞社から出版された，江ノ電や湘南の風景に関する文献が中心の計 16 冊である[注4)]。うち，江ノ電が描かれている 90 枚の風景画(図２)を対象とした[注5)]。

(2) 区間別の風景画の枚数

各駅とその間の 29 区間に分けて，それぞれの区間で描かれている風景画の枚数を数えた。その結果，江ノ島～七里ヶ浜間が 48 枚(53.3%)あった。そのなかでも鎌倉高校前－七里ヶ浜間が 21 枚ともっとも多かった。また，稲村ヶ崎－長谷間が 17 枚(18.8%)であった。このなかでは，極楽寺－長谷間が 9 枚と多かった。この江ノ島～七里ヶ浜と稲村ヶ崎－長谷の両区間で，全体の 7 割以上を占めている。

(3) 風景画の構成要素

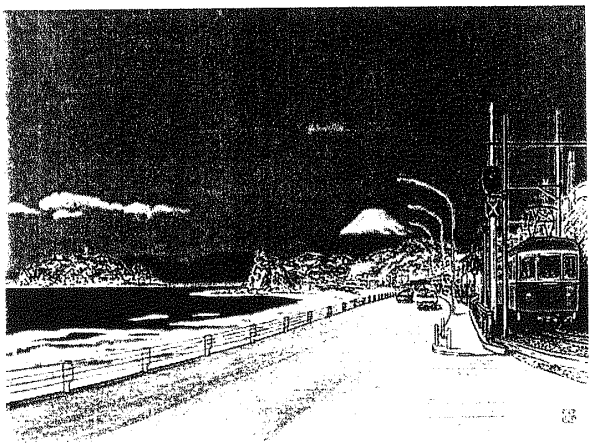
風景画を構成する要素として，富士山，江ノ島，海，道路，雪，桜，あじさい，神社，祭り，駅，トンネル，小動岬，すすき，稲村ヶ崎，鉄橋が抽出できた(表２の註参照)。これらの構成要素のなかでは道路がもっとも多く，36 枚でみられた。続いて多い順から，海が 35，駅が 28，小動岬が 23，江ノ島が 20，富士山が 14 枚という結果であった。

(4) 風景画の方角

風景画がどの方向を向いて描かれているか，つまり風景画の方角としては，西方向が 32 枚(35.6%)ともっとも多かった。つぎに多かったのは東方向で，26 枚(28.9%)あった。

(5) 風景画の季節

風景画のなかに桜，海，あじさい，雪等が描かれており季節を確認できたものは 64 枚(71.1%)あった。このうち夏の風景画は，21 枚(32.8%)ともっとも多く，秋の風景画が 15 枚(23.4%)，春と冬の風景画はともに 14 枚(21.9%)あった。



(文献 8) p.42 より)

図２ 対象とした風景画の例

2 風景画での風景イメージ

(1) 区間別の構成要素

前項の(2)と(3)をクロス集計した結果を，表１にしめす。道路，海，小動岬，江ノ島，富士山，稲村ヶ崎，すすき，祭りという，のべで全体の 70%以上を占めている構成要素は，いずれも江ノ島－七里ヶ浜間に，各構成要素のなかの 80%以上が集中していた。

NII-Electronic Library Service

表１　区間別の構成要素

区間	構成要素 合計	道路	海	駅	小動岬	江ノ島	富士山	桜	稲村ヶ崎	雪	すすき	祭り	トンネル	神社	あじさい
全体	34	36	35	28	23	20	14	12	10	8	8	6	6	4	3
藤沢	2			○2											
｜	3	●2								●1					
石上	1			●1											
｜	5	○3		●1				○5							
柳小路	1			●1				●1							
｜															
鵠沼															
｜	4			●1											
湘南海岸公園	1			●1											
｜	1			●1						●1					
江ノ島	3			○3						●1					
｜	7	○5		●1								○5		●1	
腰越	2	●1		○2											
｜	5	○4	○4						○4					●1	
鎌倉高校前	8	○8	○8	○6	○4	○3	●1		○4						
｜	21	○12	◯1	●2	◯18	◯16	○12		●2		○8				
七里ヶ浜															
｜	2	●1	●1		●1	●1	●1								
稲村ヶ崎															
｜	2		●1					●2							
極楽寺	4			○4				●2							●1
｜	9							●2		○3		●1	○6	●2	
長谷															
｜	1														●1
由比ヶ浜	1			●1											●1
｜															
和田塚															
｜															
鎌倉	1			●1											

(2)　区間別の方角

前項の(2)と(4)をクロス集計した結果，西方向を描いている風景画32枚(35.6%)のうち，鎌倉高校前～七里ヶ浜間が60%以上を占めていた。これは，この区間の西方向に小動岬，江ノ島，富士山という，前項の(3)でもみられた代表的な構成要素があるためだと考えられる。

(3)　区間別の季節

前項の(2)と(5)をクロス集計した結果，江ノ島～七里ヶ浜間の風景画が，夏の風景画のなかの76%を占めている。この区間にほぼ重なる腰越～稲村ヶ崎間では，海岸と平行して路線が走り，腰越－稲村ヶ崎間の夏の風景画には，すべてに海が描かれていた。このことは，「湘南の海」に夏のイメージがあるためだと考えられる。

また，江ノ島～七里ヶ浜間は，秋の風景画のなかでも87%と多く描かれていた。

(4)　構成要素と方角

前項の(3)と(4)をクロス集計した結果，海，小動岬，江ノ島，富士山は，西方向を向いている風景画に多く描かれていた。小動岬，江ノ島，富士山を，江ノ電を含めて描く場合には，西方向を向いて描く以外，方法がないためである。

以上のように，「江ノ電のある風景」は，多様に描かれているものの，江ノ島～稲村ヶ崎間で，西向きに，道路，海，小動岬，江ノ島，富士山を描いた，夏の風景画がもっとも代表的なものといえた。すなわち，このような風景画が「江ノ電のある風景」イメージとして発信されている。

Ⅲ　アンケート調査にみられる江ノ電のある風景イメージ

1　アンケート調査の概要

前節の分析結果をもとにアンケートを作成し，日本大学生物資源科学部湘南校舎の学生，江ノ電の駅周辺の人びと（地域住民，観光客）を対象にした，「江ノ電のある風景」イメージについてのアンケート調査を2000年12月と2001年1月に実施した。

なお，江ノ電の駅周辺とは藤沢駅，江ノ島駅，鎌倉駅の周辺であり，回答者は301人（有効回答は299），うち学生が180人，江ノ電駅周辺の人びとが121人で，性別は男性178人，女性123人である。年代は20代が168人と多いが，その他の年代は80代まで比較的偏りはない。

2　アンケート調査での風景イメージ[注6)]

(1)　思い浮かべる背景

アンケート調査の結果，「江ノ電のある風景」と聞いて思い浮かべる背景，つまり前節でいう構成要素としては，海が70.6%，江ノ島が53.4%あり，他にくらべて圧倒的に多かった。そのつぎは，あじさいが16.7%，駅が16.1%であり，富士山は14.9%となった。なお，その他の回答も47あったが，そのうち民家や塀などの回答は11あった。

(2)　思い浮かべる季節

「江ノ電のある風景」と聞いて思い浮かべる季節は，夏がもっとも多く67.6%，ついで秋が29.1%，春が24.1%，冬が12.0%で，思い浮かばないが6.4%という結果であった。

(3)　思い浮かべる季節と背景の関係

(1)と(2)をクロス集計した結果（表２），思い浮かべる季節は夏がもっとも多く，背景は海，江ノ

NII-Electronic Library Service

The Association of Rural Planning

島が多かった。その一方で，富士山を回答した人は少なかった。

以上のように，「江ノ電のある風景」として，海，江ノ島，夏のイメージを人びとは受信しているが，そこに富士山のイメージはあまりない。

Ⅳ　路線図および風景画をもちいた実験

1　路線図をもちいた実験

Ⅲのプレアンケート時に，60 人に対して江ノ電の路線図を配布し，風景が変わると感じるところで区切ってもらう実験をおこなった。この実験は 2 通りおこなった。まずは，複数箇所自由に区切ってもらう。つぎに，路線の実際の方向を考慮して，あえて 2 箇所で，つまり 3 区間に区切ってもらうというものである。複数箇所自由に区切った結果は，湘南海岸公園－鎌倉高校前間と七里ヶ浜－長谷間が 5 件以上あり，比較的多い区間となった（図３）。また，2 箇所で区切った結果も，ほぼおなじであった。

表２　思い浮かべる季節と背景のクロス集計

江ノ電らしい背景はどんなものですか？	「江ノ電のある風景」と聞いて思い浮かべる季節					
	合計	夏	秋	春	冬	浮かばない
全体	299	202	87	72	36	19
海	209	◯ 156	○ 56	○ 47	○ 23	◦ 7
江ノ島	158	◯ 111	○ 46	○ 42	○ 24	◦ 9
あじさい	50	○ 34	○ 16	○ 24	◦ 7	• 2
駅	48	○ 30	○ 10	◦ 5	◦ 5	◦ 5
富士山	44	○ 26	○ 22	○ 21	○ 14	
道路	43	○ 31	○ 13	◦ 9	◦ 5	• 2
神社	42	○ 22	○ 22	○ 10	○ 8	
稲村ヶ崎	38	○ 27	○ 13	◦ 8	◦ 6	• 1
桜	25	○ 17	◦ 7	○ 19	◦ 4	
トンネル	21	○ 11	○ 10	◦ 6	◦ 6	• 1
祭り	12	◦ 6	◦ 6	○ 7	• 3	
小動岬	10	◦ 5	◦ 5	◦ 3	◦ 4	
鉄橋	9	◦ 6	• 1	◦ 3	• 3	• 3
雪	7	• 3	• 3	◦ 3	◦ 6	• 3
すすき	6	• 3	◦ 4	• 3	• 3	• 3
その他	47	◯ 34	○ 16	○ 16	○ 9	• 3

背景の要素については，図１を参照。なお，ここでの祭りとは，竜口寺法難会や腰越の天王祭などをさす。一方，あじさい，桜，雪，すすきは，全区間にわたっている。

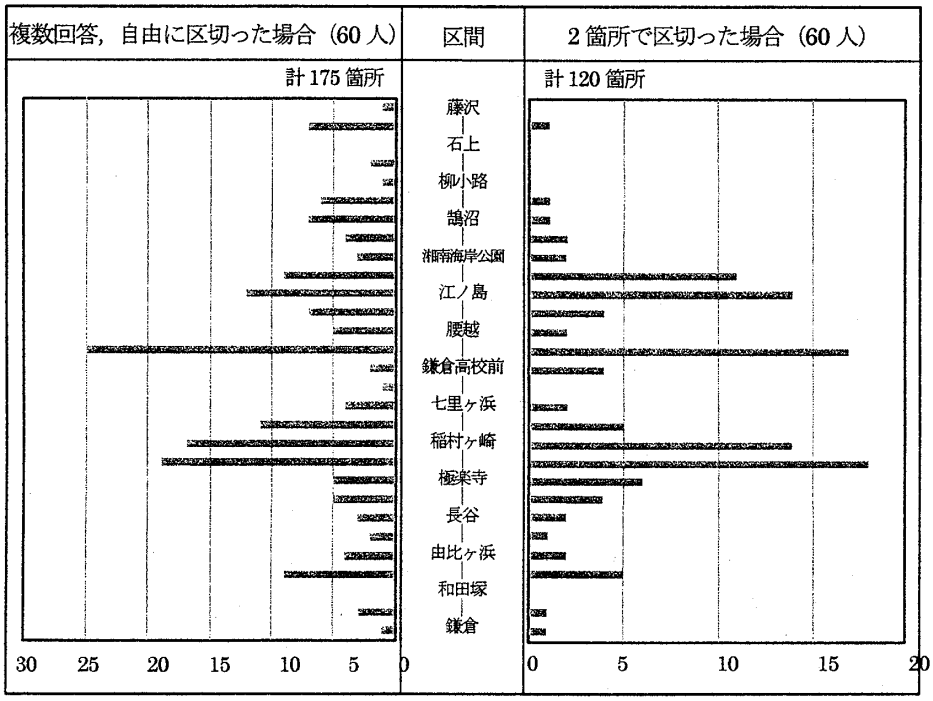


図３　路線図をもちいた実験結果

NII-Electronic Library Service

すなわち，風景イメージは，海沿いをはしる区間をはさむように変化しているといえる。

2　風景画をもちいた実験

前節でもちいた 90 枚の風景画から，その分析結果で抽出された要素が網羅的になるように 16 枚を選び出し，それらをもちいた，次節での比較考察のための補足実験も，被験者 15 人を対象におこなった。その結果，「江ノ電のある風景画」のイメージにちかいものとして選択された風景画のなかで，被験者 15 人全員が海の描かれた風景画を選択しており，うち 12 人が海のイメージがつよいためと回答した。これらの風景画は，イメージにちかい順にならべていった実験の結果にもあらわれており，上位に順位づけされた。また，夏のイメージがつよいという結果もみられた。

特徴的な結果として，富士山に対するイメージのちがいがあった。富士山が風景画のなかに描かれているからイメージにちかいと回答した被験者は 3 人いた。それに対し，富士山が描かれているからイメージにそぐわないと回答した被験者も 2 人いた。また，それらの理由として，方角をあげた被験者は 5 人いたが，うち 3 人が東を，2 人が西を向いた風景画がイメージにちかい，と回答したのも特徴的であった。

V　イメージの発信・受信の比較考察

風景画の分析結果とアンケート調査の結果を比較すると，両者の共通点として，構成要素としては海と江ノ島，季節に関しては夏があげられる（図４）。風景画をもちいた実験でも，海と夏のイメージはつよいという結果であった。これらは，湘南のイメージからくるものだと考えられる。

方角に関しては，風景画の分析結果では西方向を向いているものが多くみられた。一方アンケート調査では，方角についての質問はしていないものの，思い浮かべる背景で海，江ノ島をイメージしていた。前節の路線図をもちいた実験で，湘南海岸公園－鎌倉高校前間と七里ヶ浜－長谷間で区切った被験者がもっとも多かったが，風景画の分析結果でもアンケート調査の結果でも多くみられた海は，この区切られたあいだの区間の一部からしか見ることができない。それは腰越－稲村ヶ崎間である。つまり，腰越－稲村ヶ崎間がもっとも江ノ電の代表的な区間と考えられ，このことをふまえて海，江ノ島をイメージするという上記のアンケート調査の結果をみれば，これは西方向を向いていることになる。

以上のことより，風景画においても人びとのイメージにおいても，「江ノ電のある風景」とは，腰越－稲村ヶ崎間で，背景として海，江ノ島があり，西方向を向いた夏の季節のものが代表的といえる。すなわち，こういったイメージが，発信・受信の共通点としてあげられる。

両者の相違点としては，構成要素の富士山があげられる。風景画の分析結果では，富士山は多くみられた。しかし，アンケート調査の結果では，富士山は少なかった。風景画をもちいた実験結果でも，富士山は両極端な位置づけがなされていた。

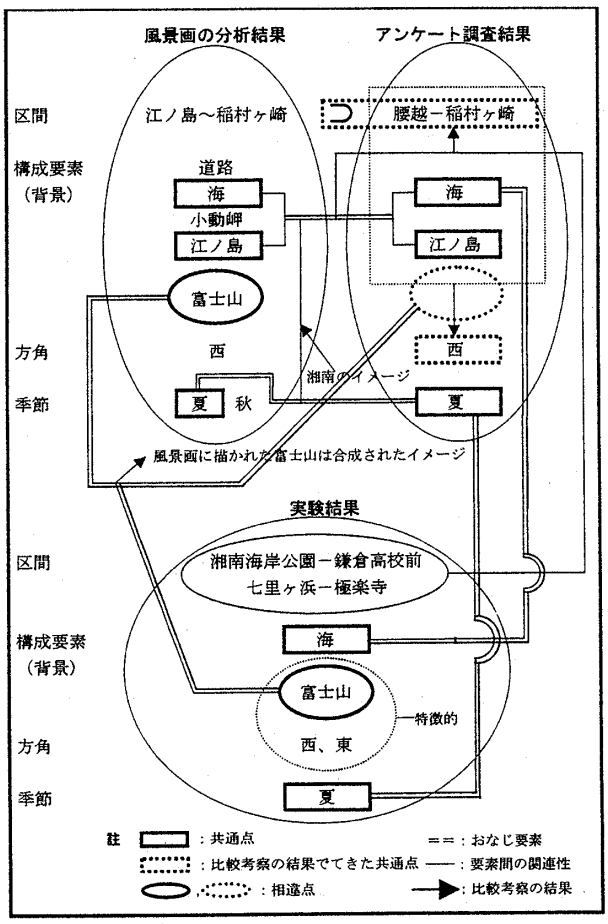


図４　風景画の分析結果とアンケート調査結果で多くみられた要素にもとづく比較考察

NII-Electronic Library Service

The Association of Rural Planning

その理由として，年間をとおしてこの地域から富士山がみえる日数はあまりないからこそ，人びとのイメージではよわい，あるいはそぐわない。しかしながら，この地域と深くかかわりをもっている人びとのイメージのなかでは，富士山はひじょうに大きなものだからだと考えられる。以上のことから，風景画に描かれた富士山は合成されたイメージのものが多い，という捉え方もできよう。

また前節の実験結果でも，比較的つよく意識されていた方角に関して，西向き，東向きという両極端な理由があげられたが，このことも地域とのかかわり方が影響していると考えられよう。

VI　おわりに

本稿では，発信・受信される「江ノ電のある風景」イメージをそれぞれ明らかにし，そのうえでイメージの各要素間に発生する関係性も考慮しつつ，両者の比較考察をおこなった。

今後は，地域とのかかわり方などによる影響も考慮したうえで，発信・受信のあいだに発生する関係性についてのダイナミックな考察を試みることが課題である。このような一連の研究およびそこでの視点が，風景イメージの総体的把握へ向けた地域環境計画の萌芽的研究としての位置を占めるものと期待している。

注

注 1) 文献 1)p.46 を参照。
注 2) 文献 2)pp.10～58 を参照。
注 3) 江ノ電の概要については，文献 4)pp.76～81 および江ノ電のオフィシャルサイトを参照。なお，本稿では，たとえば藤沢～鎌倉と書いた場合は両駅をふくめた区間を，藤沢－鎌倉の場合は両駅をふくめない区間をしめすことにする。
注 4) 文献 3)～18)を参照。なお，引用文献はほとんど江ノ電沿線新聞社発行のものであるが，それは「江ノ電のある風景」画のほとんどが田口雅巳氏によるもので，逆に田口氏が描いたものはすべて，江ノ電沿線新聞社の文献に掲載されているからである。
注 5) 90 枚のうち，田口雅巳氏が描いた風景画が 88 枚，のこりの 2 枚は木村定男氏が描いた風景画であった。
注 6) ここでは，背景と季節についてのみ分析する。前節で分析した，のこりの区間と方角については，次節以下で分析してゆく。

引用文献

1) 吉田克彦(1996)：『湘南再発見』，江ノ電沿線新聞社.
2) ブルデュー,P.(1991)：『構造と実践』，石崎晴己(訳)，藤原書店.
3) 田口雅巳(1992)：『田口雅巳のしょうなん電車の旅』，(株) ICA 企画.
4) 野口雅章(1998)：『江ノ電で行こう』，江ノ電沿線新聞社.
5) 金子晋(1979)：『一藤沢から鎌倉へ一江ノ電沿線文学散歩』，江ノ電沿線新聞社.
6) 金子晋(1982)：『江ノ電沿線 今昔漫筆』，江ノ電沿線新聞社.
7) 清田義英(1997)：『中世都市 鎌倉の「はずれ」の風景－西のはずれ「龍の口」の原風景－』，江ノ電沿線新聞社.
8) 田口雅巳(1995)：『田口雅巳のしょうなん素描』，江ノ電沿線新聞社.
9) 田口雅巳(2000)：『田口雅巳のしょうなん素描 その 2』，江ノ電沿線新聞社.
10) 内海恒雄(1996)：『江ノ電沿線歴史散歩　藤沢編』，江ノ電沿線新聞社.
11) 小蔦達夫(1997)：『江ノ電車両ガイド－改訂増補版－』，江ノ電沿線新聞社.
12) 吉田克彦(1997)：『江ノ電駅めぐり（改訂版）』，江ノ電沿線新聞社.
13) 吉田克彦(1990)：『江ノ電沿線 文人たちの風景』，江ノ電沿線新聞社.
14) (絵) 田口雅巳：「絵はがき四季江ノ電」，江ノ電沿線新聞社.
15) (絵) 田口雅巳：「SHONAN SKETCH しょうなん描」，江ノ電沿線新聞社.
16) (絵) 田口雅巳　(句) 猫の目連句会：「絵はがき鎌倉八景」，江ノ電沿線新聞社.
17) (絵) 田口雅巳
(句) 倉橋羊村，田口雅巳，宮原昭夫，ゆりはじめ：「絵はがき江ノ電点描」，江ノ電沿線新聞社.
18) (序文) 伊藤海彦　(しおり) ゆりはじめ
(絵札) 田口雅巳(1992)：「江ノ電沿線かるた」，江ノ電沿線新聞社.
・江ノ電のオフィシャルサイト(ENODEN on The Net)
http://210.224.201.13/

付記

本稿は，平成 12 年度日本大学学術研究助成金（奨励研究）（研究代表者：栗原伸治）を受けておこなったもので，当該研究の一環としての，西成田智政・藤森東「江ノ電のある風景とそのイメージ」（平成 12 年度日本大学生物資源科学部生物環境工学科卒業論文）をもとに再編成したものである。両氏をはじめ，風景画の転載を快諾してくださった画家の田口雅巳氏と，江ノ電沿線新聞社代表取締役の吉田克彦氏，アンケート調査や実験等にご協力いただいた皆さま方に感謝を申し上げます。

The scene with ENODEN has a great influence on the regional-environmental image of Shonan. The purpose of this paper is to clarify the sending image and receiving image of the scene with ENODEN, based on the landscape paintings mainly painted by Mr. TAGUCHI Masami, and moreover to compare both result.

In conclusion, their common image is: Koshigoe-Inamuragasaki as the railway section, sea and Enoshima as the background, west as the direction, and summer as the season. On the contrary, their different image is the conscious for Mt. Fuji. It can be thought that this is influenced how people concern Shonan-area.

NII-Electronic Library Service